

(四)

1415

支那國(滿洲國)之於
外法條約及國議決定
之關係

SP. 301

343

336

REEL No. A-0286

アジア歴史資料センター

支那國（滿洲國）ニ於ケル治外法權撤廢ニ關スル
條約及閣議決定



SP. 301

344

337

支那國（滿洲國）ニ於ケル治外法權撤廢ニ關スル
條約及閣議決定

目次

一 日支追加通商航海條約	明治三六一〇八
二 南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約	大正四四二五
三 日滿議定書	昭和七九一五
四 華府會議決議第四「支那國ニ於ケル治外法權ニ關スル決議」	大正一〇一〇一〇
五 治外法權委員會ニ對スル一般方針	大正一四一〇一五
六 治外法權委員會ノ任務	同上
七 支那國治外法權ニ關スル委員會ニ對スル方針	大正一五二二五
細目	閣議決定
八 滿洲國指導方針要綱	昭和八八八
	閣議決定

SP. 301

345

338

第十一條

日支追加通商航海條約 (明治三十六年)

清國政府ハ其ノ司法制度ヲ改正シテ日本國及西洋各國ノ制度ニ適合
セシムルコトヲ熱望スルヲ以テ日本國ハ右改正ニ對シ一切ノ援助ヲ
與フベキコトヲ約シ且清國ノ法律ノ狀態其ノ施行ノ設備其ノ他ノ要
件ニシテ日本國ガ満足ヲ表スルトキハ其ノ治外法權ヲ撤去スルニ躊
躇セザルベシ

南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約

(大正四年)

第五條 前三條ノ場合ニ於テ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレト
ル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又支那國警察法令及課税ニ服
スヘシ

民刑訴訟ハ日本國臣民被告タル場合ニハ日本國領事官ニ於テ又支
那國國民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ
派シ臨席傍聽セシムルコトヲ得但シ土地ニ關スル日本國臣民及支
那國國民間ノ民事訴訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ兩國ヨリ
員ヲ派シ共同審判スヘシ

將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セララルトキハ日本國臣民ニ關
スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ノ審判ニ歸スヘシ

(註。前三條ノ場合トハ日本國臣民カ南滿洲ニ於テ土地ノ
租シ居住往來シ商工業其ノ他ノ業務ニ從事シ且東部內蒙古
ニ於テ日支合辦ノ農業及附隨工業ノ經營ヲ爲スヲ謂フ)

日滿議定書（昭和七年九月十五日）

日本國ハ滿洲國カ其ノ住民ノ意思ニ基キテ自由ニ成立シ獨立ノ一國
 家ヲ成スニ至リタル事實ヲ確認シタルニ因リ
 滿洲國ハ中華民國ノ有スル國際約定ハ滿洲國ニ適用シ得ヘキ限リ之
 ヲ尊重スヘキコトヲ宣言セルニ因リ
 日本國政府及滿洲國政府ハ日滿兩國間ノ善隣關係ヲ永遠ニ鞏固ニシ
 互ニ其ノ領土權ヲ尊重シ東洋ノ平和ヲ確保センカ爲左ノ如ク協定セ
 リ
 一 滿洲國ハ將來日滿兩國間ニ別段ノ約定ヲ締結セサル限り滿洲國領
 域内ニ於テ日本國又ハ日本國臣民カ從來ノ日支間ノ條約協定其ノ
 他ノ取極及公私ノ契約ニ依リ有スル一切ノ權利利益ヲ確認尊重ス
 ヘシ
 ニ（略）

348

341

SP. 301

華府會議決議（大正十一年）

決議第四

支那國ニ於ケル治外法權ニ關スル決議

（前略）

前記諸國政府ハ委員會（前記諸國政府ハ之ニ對シ各一名ノ委員ヲ任
 命ス）ヲ組織シ支那國ニ於ケル治外法權制度ノ實施ノ現狀並支那國
 ノ法律、司法制度及司法運用手續ヲ調査セシメ依テ右事項ニ關スル
 右委員會ノ事實調査並支那國ニ於ケル司法運用ノ現狀ヲ改善スル爲
 及治外法權ニ關スル各國ノ權利ヲ漸次ニ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ徹
 去スルコトニ付各國ヲ首肯セシムヘキ立法及司法上ノ改正ヲ實行セ
 ムトスル支那國政府ノ努力ヲ援助シ且促進スル爲其ノ適當ト思惟ス
 ル手段ニ關スル勸告ヲ前記諸國政府ニ報告セシムヘシ

（以下略）

（註。前記諸國政府トハ日、英、米、佛、伊、白、蘭、葡ノ八ヶ國
 政府ヲ謂フ）

342

349

SP. 301

治外法權委員會ニ對スル一般方針 (大正十四年十二月十五日開議決定)

一 支那カ治外法權制度ノ羈絆ヨリ脱セムトスル宿望ハ最近暹羅土耳其等ノ實例ニ刺激セラレテ益々熾烈ヲ加ヘ國民ノ現行制度ニ對スル不滿ハ内外ノ煽動者ニ口實ヲ與ヘテ屢々排外運動ノ因ヲ成シ今ヤ北京ノ政權カ何人ノ手ニ歸スルトモ來ル治外法權委員會ニ當リテハ本問題ノ最終解決ニ全力ヲ竭クスヘキコト疑ヲ容レス熟ラ世界思潮ノ大勢ニ稽フルニ本件支那ノ國民的宿望ハ今後久シク之ヲ抑壓スルコトヲ得サルノミナラス帝國政府トシテハ寧ロ此ノ際進ンテ之カ達成ヲ援助シ一ハ以テ支那人心ノ安定ヲ圖リ一ハ以テ同國ニ於ケル我經濟的利益ノ増進ニ資スルヲ得策ナリト認ム

二 然レトモ支那ノ現狀ニ於テ直ニ治外法權ヲ撤廢スルハ時宜ニ適スル所以ニ非ス支那ハ先ツ自ラ内外人ノ身體及財産ノ保護ニ直接關係アル各般ノ法規ヲ完成實施スヘク帝國政府ハ右法規實施ノ日ヨリ一年ノ經過ヲ待チテ本件特權ヲ拋棄スルノ決意ヲ有ス但シ治外

法權撤廢後ト雖之ニ伴フ在支外國人ノ不安ヲ除去セムカ爲若干ノ期間支那ニ於テ特定事項ニ付保障ヲ與フルコトヲ要ス

三 治外法權撤廢地域ハ支那全部ニ亘ルヲ當然トスルモ會議ノ形勢ニ依リテハ當初數省ニ限定シ漸次他省ニ及ホスコトスルモ不可ナシ何レノ場合ニ於テモ數ヶ所ノ同居留地及各國專管居留地並公使館區域及滿鐵附屬地ハ其ノ多年ノ歴史ト現狀トニ順ミ一般ノ事例ヲ以テ之ヲ律スルコトヲ得ス當分ノ内大體現制ヲ維持シテ之カ解決ハ他日ノ考量ニ讓ルノ外ナク殊ニ滿鐵附屬地ニ付テハ我國國民的感情ノ極メテ鋭敏ナルモノアリ直ニ其ノ現制ノ變更ヲ許ササルハ已ムヲ得サル所ナリ

四 治外法權ノ撤廢セラレタル地域ハ當然外國人ノ居住營業ノ爲ニ開放セラレサルヘカラス支那カ此ノ原則ヲ承認スルハ帝國政府ノ最も重要視スル所ナリ之ト同時ニ帝國政府ハ治外法權撤廢ノ效果トシテ民刑事一切ニ對スル支那ノ法權並ニ支那ノ警察權及課稅權ヲ

齊シク承認スルノ意向ヲ有ス
若シ支那又ハ列國ノ提議ニシテ或ハ支那ノ不合理ナル民論ニ迎合
シ或ハ人種的偏見ニ捉ハレ殊ニ支那ノ國際管理又ハ内政干涉ニ亘
ルカ如キモノアラハ帝國政府ハ主義トシテ斷然之ニ反對シ常ニ公
正ノ見地ニ依リテ終始セムコトヲ期ス

治外法權委員會ノ任務 (大正十四年十二月十五日閣議決定)

治外法權委員會ノ任務ノ細目ハ委員會自ラ之ヲ定メ得ルコトトナリ
居ル處右細目ノ決定竝ニ實狀調査ニ當リテハ左記ノ方針ニヨリ措置
スルコト

- 一 委員會ノ任務ノ範圍ハ主義トシテ華府決議及本年九月四日ノ對支
回答ノ趣旨ニ據ルコト
- 二 調査項目ニ付テハ本省編纂ノ支那司法制度、司法警察制度ニ關ス
ル調査等參照ノ上適宜作成ノコト
- 三 委員會ノ任務中ニハ當然治外法權ノ撤廢ニ關聯スル諸問題即チ(一)撤
廢ノ時期及方法竝ニ(二)撤廢ニ伴フ内地開放及外國人ノ居住營業ノ
條件等ニ關スル建議ノ提出ヲ含ムコト
- 四 委員會ノ調査及實況視察ニ妄ニ支那ノ司法制度ノ缺陷又ハ弊害ヲ
穿鑿摘發スルヲ以テ目的トセス治外法權ヲ撤廢シ得ヘキ合理的成

案ヲ得ルニ努ムヘキコト
 兵委員會ノ提出スヘキ治外法權撤廢ニ關スル建議ニハ成ルヘク單一
 條約ヲ締結スルノ目的ヲ以テ其ノ具體的成案ヲ作成スルコト
 六委員會ニ於テ條約ニ基カサル在支帝國警察官ノ配置ニ關シ問題提
 起セラレタル場合ニハ委員會ト引離シ華府決議第六ニヨリ處理ス
 ルノ主義ニ據ルコト

支那國治外法權ニ關スル委員會ニ對スル方針綱目
 (大正十五年一月廿五日閣議決定)

一 撤廢ノ時期

支那ハ民事刑事ノ實體法、其ノ手續法、裁判所ノ構成法等生命、
 身體及財産ノ保護ニ直接關係アル法規ヲ完成シ之カ實施ニ必要ナ
 ル相當期間ヲ設ケテ公布スヘキ旨ヲ聲明スルコト
 列國ハ前記諸法規實施ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ治外法權ヲ
 撤廢スヘキ旨ヲ聲明スルコト

二 撤廢ノ地域

(1) 治外法權ノ撤廢地域ハ支那全部ニ亘ルヘキコトヲ主張スルコト
 此ノ主張不成立ノ場合ニハ省別ニヨリ治外法權撤廢地域ヲ定メ
 シムルコト
 右地域ヲ定ムルニ付テハ帝國ノ利益ニ考慮ヲ加フルコト
 右地域ハ條約實施後ト雖列國ト支那トノ協議ニヨリ之ヲ追加シ

得ルコトトスルコト

(2) (イ) 上海及厦門ノ共同居留地、天津、漢口、廣東ノ各國專管居留地、滿鐵附屬地及公使館區域ハ多年外國人ノ努力ニ依リ其ノ經營ノ實績ヲ收メ來リタルモノニシテ且現ニ其ノ地域内ニ於ケル外國人既得ノ權利利益ハ極メテ重要ナルモノアルニ願ミ該地域内ノ法權問題ハ一般ノ治外法權問題ト切離シテ考量スルコトトシ當分ノ内從來ノ事態ヲ維持スルコト但シ該地域ノ支那人、無領事裁判權國人ニ對スル支那ノ司法權ノ行使ト外國行政權トノ關係ヲ圓滑ナラシムル爲共助的の制度ヲ設クルモ差支ナキコト

(ウ) (イ)ノ主張カ會議ノ空氣ニ副ハサルカ又ハ内地開放要求ノ著シキ障害ヲ爲スヘシト認メ得ル場合ニハ領事裁判權ハ其ノ本質上屬人的ノモノナルニ鑑ミ前記居留地及公使館區域並ニ滿鐵附屬地ノ現行制度(管理國等ニ依ル行政權ノ行使)ヲ存續ス

ルト同時ニ領事裁判權ノ拋棄ハ該地域内ニモ及フコトトスルモ差支ナキコト、此ノ場合ニハ管理國等ノ行政權特ニ司法警察權ノ行使ト支那裁判權トノ關係ヲ圓滑ナラシムル爲メ詳細ナル共助的の制度ヲ設クルコト

(イ) 前記(ウ)何レノ場合ニ於テモ左記ノ趣旨ニ依ルヘキコト

會審ノ制度ハ廢止スルコト

會審衙門廢止ノ要求ニハ同意シ差支ナキコト

北京公使團ニテ審議中ナル上海共同居留地工部局支那人參與ニ關スル問題ハ厦門ノ分ト併セ各國平等ノ基礎ニ於テ之カ解決ヲ期スル爲メ本委員會ノ所管ニ移スコト

撤廢ノ效果

領事裁判權ノ撤廢ハ民事刑事ノ全般ニ亘ルヘキコト但シ親族相續其ノ他身分ニ關スル事項ヲ外國裁判所ノ管轄ニ屬セシメムトスル提議ニハ反對スルニ及ハサルコト

治外法權ノ撤廢セラレタル地域ニ於テ外國人ハ内國民待遇（但シ外國人間ニ差別的待遇ヲ爲ササルコト）ノ基礎ニ於テ（一）支那ノ警察權及課稅權ニ服スルコト（二）居住營業ノ自由ヲ有スルコト（三）動産不動産ニ關スル一切ノ權利ヲ享受シ且農業、企業其ノ他ノ合法ナル業務ニ從事シ得ヘキコト但シ以上ノ内國民待遇ハ相互主義ヲ條件トスルヲ妨ケサルコト

四 撤廢ノ保障

治外法權ノ撤廢ニ伴フ在支外國人ノ不安ヲ除去スル爲メ支那ニ對シ左記ノ保障ヲ要求スルコト但シ第一、一般的保障及第二、過渡的保障中ノ（四）（五）（六）ノ事項ハ會議ノ形勢ニ應シ支那側自發的宣言ノ形式ニ依ラシムルモ差支ナキコト

第一、一般的保障

（一）支那ノ行政及軍事官憲ハ直接タルト間接タルトヲ問ハス一切司法ノ運用ニ干渉セス且外國人ハ如何ナル場合ニ於テモ行政又ハ軍

事官憲ニヨリ裁判セラレサル旨ヲ明定スルコト

（二）民事刑事ノ簡易程序條例ニ依ル裁判及民事拘留ノ制度ハ外國人ニ適用セサルコト

第二、過渡的保障

（一）外國人關係ノ民事訴訟ヲ管轄スル支那裁判所（分庭ヲ含ム）

ハ其ノ管轄區域ト共ニ之ヲ特定スルコト右裁判所ハ列國ト支那トノ協議ニ依リ何時ニテモ追加又ハ變更シ得ル様爲シ置クコト

（二）外國人ヲ拘留スヘキ看守及監獄ニ付テモ亦同様タルヘキコト

（三）外國人ヲ原告又ハ被告トスル支那裁判所ノ民事又ハ刑事ノ裁判ハ遲滯ナク當該外國人所屬國ノ外交官又ハ領事官ニ通知スルコト、右外交官又ハ領事官ハ公正ヲ期スル爲メ必要ト認ムルトキハ裁判ノアリタル日ヨリ一定期間内ニ當該裁判所ノ判事ニ宛テタル書面ヲ以テ事件ノ再審査ヲ請求スルヲ得ルコト再審理ノ請求アリタルトキハ事件ハ原審裁判所ノ他ノ部又ハ原審裁判所ト

同級ノ他ノ裁判所ニ繫屬スルコト、再審理ノ場合ニハ外交官又ハ領事官若ハ其ノ代表者ハ審理ニ臨席シ會議ノ際意見ヲ述フルコトヲ得右意見ハ判決書ニ掲記スルコトトスルコト

(4) 本國ニ於テ適法ノ登録ヲ受ケタル外國辯護士ハ何等ノ手續ヲ要セスシテ支那ニ於テ支那辯護士ト同様ノ權利ヲ認メラルヘキコト又外國人ハ其ノ欲スル通譯ヲ裁判所ニ帶同スルコトヲ許サルヘキコト

(5) 外國人タル刑事被告人ハ公安ヲ害セスト認メラルル限り保釋ヲ許サルヘキコト

外國官憲ハ看守所及監獄ニ拘留セラルル自國人ニ面會シ又ハ之ト通信スルコトヲ許サルヘク死刑執行ノ場合ニハ其ノ執行前ニ

犯人所屬國官憲ニ之ヲ通知シ立會ノ機會ヲ得シムルコト

(6) 治外法權ノ撤廢セラレタル地域(但シ撤廢ノ地域(2)ノ地域ヲ除ク)ニ於テ支那官憲ノ外國人ニ對スル臨檢、搜索、拘引、拘留

逮捕及強制執行(保全處分ヲ除ク)ニ付テハ外國人所屬國領事ニ豫メ通知シ立會ノ機會ヲ得セシムルコト但シ現行犯ノ場合ニハ處分後速ニ所屬國領事ニ通知スルコト

(7) 外國人ヲ支那裁判官ニ任命シ又ハ支那裁判所ニ顧問ヲ配屬スルノ考案ニハ反對スルコト

(8) 支那中央司法部ニ外國人法務顧問ヲ備聘セシメ支那ノ裁判ノ運用及行刑事務ノ監督ヲ爲サシムトスル考案ニ對シテハ反對スルコト但シ會議ノ形勢已ムヲ得サル場合ニハ日本人顧問ノ参加ヲ條件トシテ贊成スルヲ妨ケサルコト

(9) 過渡的保障ハ條約ニ依ルト支那側宣言ニ依ルト問ハス第一項ニ掲ケタル治外法權撤廢ノ日ヨリ起算シ十年間存續スルコト

1415

滿洲國指導方針要綱（昭和八年八月八日閣議決定）

一 滿洲國ノ司法ニ關シテハ特ニ同國ノ國民性ト習俗トヲ尊重シ速
ニ法制ノ整備及組織ノ充實ヲ圖リ遍ク遼法ノ美風ヲ養成セシム
ルト共ニ對外的信用ノ確立ヲ期シ以テ治外法權ノ漸進的撤廢ヲ
實現スルコトニ努メシムルモノトス

SP. 301

362

355

REEL No. A-0286

アジア歴史資料センター